発行所
三池炭鑛労働組合
大牟田市不知火町
電話3033番
機械 528 475 番
編集発行人 平島敏治
三鑛労組印刷工場
三鑛労組機関紙

三万人の『大行進』

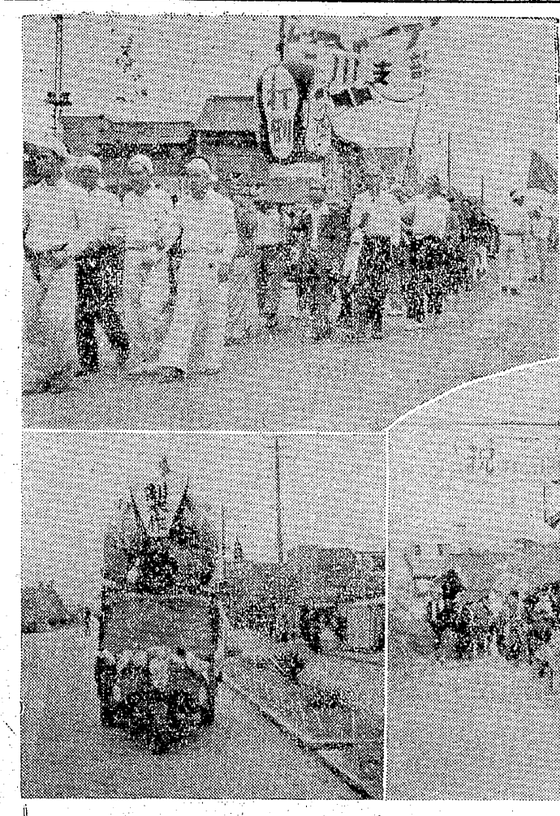
大牟田のメーデー

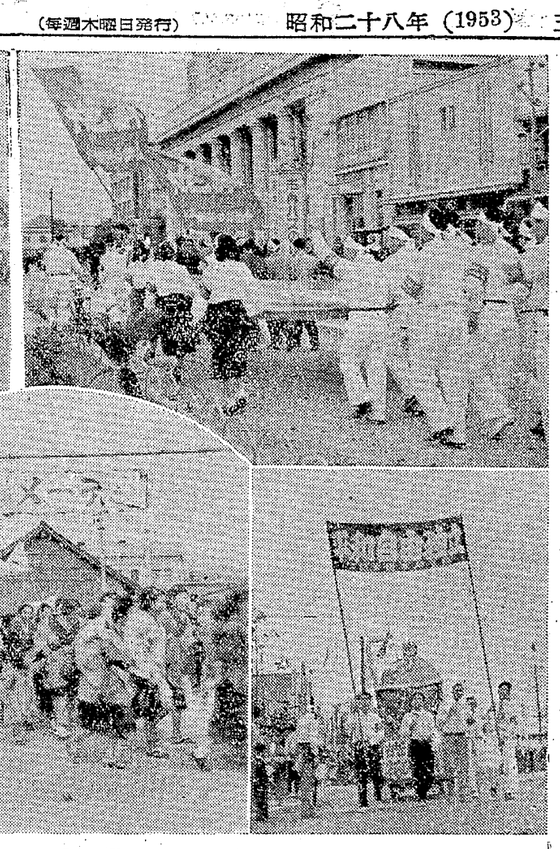
記録破りの盛況

世界中の労働者が、時を同じくして一日だけ職場を放棄し、自らの力を誇示する事に一度の祭典第廿四回メーデーは、独占資本の擁護と向米一辺倒の政策を強行する事によって戦争の危機を招こうとする反動、逆コースの風潮激化に抗して、一日全国一斉に挙行された。此の日大牟田笹林公園に参集した組織労働者の数は三鉱労組の一万五千を先頭に三菱、電化、合成、電産、東圧など総計三万名を超え、さしもの広場を人と旗の波で埋めつくし、働く者の団結の威力を遺憾なく示した。

定刻午前十時、司会者大地評北原事務局長の挨拶に次いで團長団に三鉱宮川組合長、電化町筋副組合長、市従組松下委員長、大会実行委員長小宮大地評会長の挨拶、スローガン採択に引続き三鉱労組花園政対部長

今度の衆参両院選挙闘争で我々はたしかに一歩前進した。革新政党の進出と、反面自由、改進両保守政党が、廿からの議席を減じた事が如実にそれを示してと力強く大会宣言を読み上げれば早田メーデーを滞りなく終った





第24回メーデー

【左上】三川支部の行進【右上】白裝束の本部役員
【左下】地球を三輪車に積んで（三作）【下中】力強い婦人会の参加【右下】地球を積んで（本所）

前進

炭婦協結成を急げ

昨年の長期ストは総資本対総労働の名で呼ばれたが、バカヤロー解散に端を発した今次四月の総選挙は、保守勢力対革新勢力の闘争として内外の視聴を集めた。そして資本と労働の相反する二大勢力が定期的な又は突発的な賃金闘争から漸次廣汎な生活全般に亘る要求へと形体を変えると共に組合員のみでなく家族を含め、他組織と連繋した多角的な闘争へと移行して来た事は誰知らぬ者もない現代の常識となっている。

（二）

斯かる組織活動の滔々たる流れの中にあつて、単一組合である炭労がその協力体として婦人を組織する事は最も自然な現象であり、むしろその遅きを歎かねばならない處であろう。

幸いにして炭労傘下各組合には續々として炭鉱婦人の協議会が誕生し一昨年中央炭婦協の結成に引續き、九月には福炭労傘下の所謂福炭婦協の結成を見た友山の山野、田川も昨年これに参加した事は周知の通りである。

（三）

去る五月一日の大牟田地區統一メーデーに於て三鑛代表として送つた本所支部婦人会の森さんは異色ある意見發表として炭婦協の問題を次の様に提起している。

「組合員を擁する組合は私達婦人の夫であり、私達婦人會の者は組合の妻であり、家族であります。

その夫たる組合に婦人会の妻たる者が協力して行く事は當然の事であります…」

又次の様にも訴えている。

「再軍備の結果私達は立つ事も這う事も出來ない窮地に追込まれる事は火を視るよりも明らかな事で御座居ます…」

この短い引例にも察しられる様に吾々の生活を守る者は組合のみでなく、夫のみでなく、組合、組合員、家族が三位一体の境地にならざる限り不可能な段階であること。婦人は意志なき人形ではないことの宣言である。

（四）

三池に於ける炭婦協結成は既に二年來の宿題となつていた。而して今後組合が當然の組合活動として炭婦協結成に乗り出した時、打つて響く様に此の反對運動が起る事は豫想に難くない處であり、それが公然と会社の職制を通じて行はれるか、或は婦人内部の意見として主張されるか、更には個人の見解として耳から耳へ傳えられるか、方法は異るにしても歸する處は炭婦協結成への妨害であろう。

而も恐らくその最もらしく主張する内容は

①組合に操縦される自主性のない婦人会

②政治的に利用される選挙の爲の母体

③赤い色彩に奬められる左翼偏重の手先になる

④会社あつての組合であり家族である

等を中心として炭婦協結成反對の決議までも持つて行こうとするであろう。

（五）

くどく言う必要もないと思うが、組合が強化される事が要求獲得の第一要件であり、組織が強くなる爲には関係者一同が一心同体となつて協力する事である。

組合員にして組織の強化を願はない者はないであろうから、炭婦協反對の人々が何を筋金として動くかを眞剣に見極めねばならない。

道は二本しかない。どちらにも行きたくないと言う者は日暮れてなお休息の宿もなく岐れ道にたゝずむ旅人の姿を想像するがよい。

組合はあらゆる干渉と妨害を排して炭婦協を育成する事が組合の前進である事を決議し実行する。

平和四原則遵守と組織の強化を図る

1953年行動方針

上部組織である炭労の行動方針が三月の伊東大会で決定したので、これにもとづいて山元の闘う態勢を整えるために、三鉱労組としての行動方針をうちたてるべきだとして、中央執行委員会より附帯された専門委員会が起草して各機関で検討し、四月二十四日の中央委員会でこれを確認した。前文は炭労の行動方針にもとづくところの情勢分析を行い闘争の在り方としては全般的に危機にひんした世界資本主義は反ソ反共という強引なアメリカ帝国主義の世界政策に縋りたてられ、その経済的援助、支配のもとに戦争継続を準備することによって辛うじて恐慌の爆発を明日に引延しつゝその崩壊を支えている。それが資本主義の死活を制するものがあるだけにその「擁護」の問題は総資本の一体的強力な「攻勢」化であり、独占資本と労働者階級との深刻なる対決を課題としている。従って今後のわれ〳〵の闘い方も規定づけられて来る。一九五三年度の闘争の主たるものは

①平和憲法改正反対
②第三勢力の結集
③中国貿易再開促進
④アプソシヤム反対

という具体的課題にまで展開しつつある

一、平和を守る闘い

国内外の諸情勢の推移に照らして、平和憲法改正反対も平和四原則をこゝに修正する必要はなくむしろその強力な推進こそ図らなければならない。これはわれわれの政治的信条である。即ち全面講和促進、安保条約の破棄、再軍備反対、中立堅持の立場は今日に於ては更に

二、生活を守る闘い

賃金、労働時間等いわゆる狭義の営業用をこゝ一つ労働条件として確保していくことは不断の闘争であるが、特に次の指標に留意する

①保安対策の強化

生産に対する保安優先主義の確立を図いとり生産計画及作業条件をこれによって規正する。

「雇用」時別法制定促進とその防止対策も保守闘争の重要な一環である。

②労働協約及就業規則闘争

労働条件は勿論であるが特に組合活動と癒着する規定乃至運用が労と労働条件を守る闘いであり、スト

三、選挙闘争

国内情勢に分析した通り、再軍備十制限法反対闘争は賃金闘争の延に反対し平和憲法を守る闘いはフ長としての意義を自覚して公務、アツショ勢力の打倒によりこれは海道職組が計画設立したが完全に失敗、二度とこのようなことは考えるべきではないと言明しており この事実からしても全国的組織化は、単なる夢にすぎない。

鹿炭労としては、この点をよく職組の下部に浸透させるよう運日オルグを派遣している。

四、組織の強化

組織は組合運動の始めでありまた終りでもある。一切の戦力と行動単位団、児童会、大和党あるいは文の源泉は組織の強化発展にあるということができる。

昨年賃闘の過程に於て炭労組織には四単産の総評批判を機として部分的脱落と動揺を経験し、更に四月選の結成があり電産にも分裂が観われる。

加えて権力と資本は直接間接組合及組合員への弾圧と分裂と干渉と威かくと懐柔にあらゆる手段を講じてその弱体化をねらつている。このような情勢の中に在る本年度は組織の整備強化こそ最も急務とする所であるわれ〳〵の重点指標でなければならない、このために

①階級意識の浸透

教宣活動の徹底に欠つる所が多いが「社会タイムス」の普及をはかり大衆別紙の反復を通して啓発を行い、幹部及び中堅組合員には理論的武装と政治教育により権力、職制の圧力に対する抵抗力を高めねばならない。

今日反動攻撃は複雑多岐な現象をとり、第二組合の育成、その為のオルグ派遣、或は愛労運動職場防衛、愛山精神の鼓舞と鼓吹といつた直接的なものから、商業新聞、御用団体機関紙、刊行物、ラジオ等のマス・コムの外、婦人会、青年団、児童会、大和党あるいは文化団体化を図つている。

②地域分会の育成強化

職場分会が単に選挙母胎としての形式的存在に化しつゝある傾向すら見受けられる点は率直に反省してその立直り強化を必要とするが一方地域分会は自由な日常生活の場における結合として強力であり闘争組織の基幹としてこれに重点的育成を図じる

③婦人組織

既存婦人会とは併立的に或は吸収しほとんどを醸成しつゝある実体を正しほとんどを醸成しつゝある実体を正と共に、その是正のために闘わなければならない。

ほとんどを醸成しつゝある実体を正と共に、その是正のために闘わなければならない。

既存婦人会とは併立的に或は吸収逐次地域分会婦人部組織に切替え年度内に炭婦協加盟を完成する。

④青年組織

規約上の組織とは別に青年を行動主体として支部毎に組織し育成する。

⑤炭労単一化の促進

一挙に資本別組織の解消を期する

兵器生産の話（最終回）

九大助教授　奥田八二

なぜ出血受註になるか、その理由①アメリカが日本を抑圧して勝手に援護うから②日本経済力の弱さから、国内市場の狭さ、国民生産の低劣さ、労働者の弱さから③それは資本家を甘やかさせ、技術を企業家には政府が何億円も貸すのに中小企業は高い金利で手形を割っている。だからわれわれはこの弾丸をノシワよせタマゝと呼んでいるんですよ。経営の責任者にもまた三月分の給料が不払いにして…

なぜこうまでして時帯をうけるのか　民需品を作っても

①朝鮮の戦争は六月頃大量に発注されるとウワサの高い保安隊の名でだというのである。この兵器は何回でも読み返してみたい。

②物的戦力の蓄積

生産力帝国主義の世界政策に縋りたてられ、その経済的援助、支配のもとに戦争継続を準備することによって辛うじて恐慌の爆発を明日に引延しつゝその崩壊を支えている。それが資本主義の死活を制するものがあるだけにその「擁護」の問題は総資本の一体的強力な「攻勢」化であり、独占資本と労働者階級との深刻なる対決を課題としている。従って今後のわれ〳〵の闘い方も規定づけられて来る。一九五三年度の闘争の主たるものは

①平和憲法改正反対
②第三勢力の結集
③中国貿易再開促進
④アプソシヤム反対

という具体的課題にまで展開しつつある

雲仙會談

四月十三、十四日長崎県雲仙温泉において開催された会議は炭労脱退と「炭坑職組連合会」仮称の設立が議題であったが、結論としては一応各支部毎にそれぞれの方法（機関決定～組合員無記名投票）で態度を決定することになった様である。この会議の中心になったのは麻生職組と三菱職組の一部が中心であった様である。

各職組の動向

先ずこの動向に決定的な要素をもつと言われる三社連（三井職組）は四月二十八日より中央大会で討議中であるが、三池、北海道が脱退と見受けられるとの事である。

三井職組と同じく炭労を脱退しないがよいとみられる傾向すら見受けられる点は率直に反省してその立直り強化を必要とするが一方地域分会は自由な日常生活の場における結合として強力であり闘争組織の基幹としてこれに重点的育成を図じる

③婦人組織

既存婦人会とは併立的に或は吸収逐次地域分会婦人部組織に切替え年度内に炭婦協加盟を完成する。

④青年組織

規約上の組織とは別に青年を行動主体として支部毎に組織し育成する。

⑤炭労単一化の促進

一挙に資本別組織の解消を期する

一部幹部の保身策？

職組の炭労脱退問題

運日商業紙に報道されている、職組の炭労脱退については全労働者が注視の保身策から組織の分裂をもたらすことは組織労働者の敗北であり裏切り職組が脱落することによって下級職員が如何なる立場に置かれるかを職組自体が考えることと、亦この問題が若々労働組合の方にも大なり小なりの影響があるとして、一切の感情をすて〻組合員が居ることを考え慎重に行動すべきである。

全国的にみると九州を除いてこの様な動きはなく当初の目的全国的職組連合の設立は今のところ全然見込みはない状態である。九州に於ても三菱職組内部においても組織の組織化については九州だけでも問題があるようである。

職組動向の眞相と對策

この様な動向は絶対的には組合を御用化する分裂行為であるとの見方をする人もいる。然し一面この様な動きが全国的にみてもむしろ労働戦線の統一の方向にあるとき これと逆行する行為は職組自体を減するものであるとする職組の組合員も多数ある。まして、炭坑企業整備の嵐にかゝるときを目前にしていることを組合員は日とともに自覚しつゝある。

これらから判断しうることは一部幹部のみの動きであることが分る。職組といえどもわれわれと同じくるしみをうけている下級職員が組合員の大多数であることを忘れてはならない。

又職組の全国的組織については北海道職組が計画設立したが完全に失敗、二度とこのようなことは考えるべきではないと言明しており この事実からしても全国的組織化は、単なる夢にすぎない。

鹿炭労としては、この点をよく職組の下部に浸透させるよう運日オルグを派遣している。

下級職員の首切促進？

麻生は四月二十七日、貝島は四月二十九日それ〴〵機関によって炭労脱退を決議した。炭鉱企業整備の嵐を前に今闘える組織への合言葉をもつて中小労組等の加入がつゞいているとき、これに逆行する両職組の脱退は下級職員の首切りを促進するものとしてまことに遺憾きの貫金闘争で炭労二十七万の組合員をうらぎり炭労を去つた常駐労組が三千人の首切りを承認し闘えない労組の姿を露呈していることが今さらの如く思い出される。

職場リクレーション講習会

職場リクレーション講習としてスクエア・ダンス、フォーク・ダンスを中心として大牟田労政事務所が主催で次の日程で開催される。

期日＝五月七、八日　十九、二十日　二十六、二十七日
時間＝午後五時三十分より
場所＝大牟田労働会館

ポイント

炭婦協結成の問題をめぐつて十人十色

顔が違う様に言う事も違う

然し炭本家の味方か

労働者の味方しかない時には有色人種か、白色人種かの違いと選ぶ処はない

※

六十三日のストで痛い目を見たのは殆ど総だ

炭鉱の労働者の家族が誰と手を握ったらいゝか分らない位ならもつと苦しんでみなければなるまい。まして組合員が炭婦協結成に反対なら何をか言はんや

※

酔つてはいませんと言い乍ら酒臭い息をする奴がいる

会社の指示ではありませんと言い乍ら、あやしげな言い廻しをしている者がいる

その点では組合には表だけ賛成がない

婦人よ勇敢なれ

組合千一夜（第六十三話）

二輛美人

平島敏治作
久慈悠一画

昼食の済んだ事務所の片隅で、頑さんはいつものくせの大きいせのびしながら、あくびをかみしめると、隣席の六べえさんが「頑さんちゃん、毎日々々朝起て出て来るものゝとどく毎日同じ位置に通勤者の大半が乗車する。頑さんは三輛目に乗るのがくせで、二輛美人が徴動せぬ以上は、毎日地球が回転する如く顔を合せるわけである。

既に二輛美人と顔を合せるようになつてから一年近くになるが、退屈ではないらしい。

それは或る雨の降る日であつた朝寝坊がたゝつてか少々時間に遅れてかけ込んだ。二輛目に矢張り与に比べて、三万、四万と給与を受ける能率の上らぬ幹部高給者が居ることも弱点の一つで、これもマンネリズムとなつて退屈らしい「地球が回転するごとく人生も亦回転する」これが彼の持論であるらしい。今日も彼のお株をとつて拘束されるが、電車の一輛目に乗ろうと二輛目に乗ろうと好い条件のところに乗車するのが常道であるが、無理押してまできまつたものゝごとく毎日同じ位置に通勤者の大半が乗車する。頑さんは三輛目に乗るのがくせで、二輛美人が徴動せぬ以上は、毎日地球が回転する如く顔を合せるわけである。

既に二輛美人と顔を合せるようになつてから一年近くになるが、退屈ではないらしい。

それは或る雨の降る日であつた朝寝坊がたゝつてか少々時間に遅れてかけ込んだ。二輛目に矢張り与に比べて、三万、四万と給与を受ける能率の上らぬ幹部高給者が居ることも弱点の一つで、これも同僚に「オス」「ヤス」「ガンバるかん」といつもの同じ挨拶をする。

「地球が回転するごとく人生も亦回転する」これが彼の持論であるらしい。今日も彼のお株をとつて

金時をかけ食いで六杯食つて下痢した、というシロモノの蕨山健吉君ごとバベえさんに先手をうたれたわけである。

頑さんにいわせるとハワイの叔父さんが立ヂベート経由で送つてくれた、所謂アメリカ中古品の服を着て、母親から毎朝起されせきたてられて遅刻の脅威と闘いながらの通勤電車えの歩行である。プオームや電車の中で合せる顔はいつも席取で同じ顔ばかりでこれも変りばえのしないことである。

変りばえのしない変種がその中に一つある。それは多分Y市のY駅から乗車するらしい二十二、三才位の美人が居る。勿論彼女の勤先を知る者は少い。通勤者諸君は彼女を二輛美人と名をつけている。それは定位置の如く彼女は二輛目の前部に必ず座っているからである。人の心理というものは微妙なもので、乗車の時間は門限の関係人の隙にかばんをなげかけた。「アソ」と頑さんは思はず声を出したものゝ後のまつりで、二輛美人が既んでいた書物を、雨土で汚れた電車の土間に叩きつけてしまつた。かばんは彼女のひざにお邪魔させたまゝあわてゝくたんの書物を拾い上げようとすると、彼女は「いゝですの」と止めようとした頑さんはじゝが男性の責任感を見すべきとこと、余りきれいでもないハンケチをとりあげてよごれた部面を拭こうとすると彼女はそれを取ろうとして、車内の皆んなの視線が二人に集中した。強引に頑さんはその書物を拭こうとしたが、それがなんとお蓮の本であるまたその汚れた部面の図解が何であるかは云わずもがなである。

それから三ケ月過ぎた頃から二輛美人の姿が見えなくなつたが、頑さんの家の前に助蓮嬢の看板がかゝるようになつた。

理論的武装と政治教育は
社會タイムスを讀んで……

社会タイムス

◎購読料　一ケ月百円　送料参拾円
◎申込先　本支部に御申込下さい
◎直接購読の場合は
東京都新宿区四谷一ノ二社会タイムス社